



Lawfree
Lawfully sets you free.

AIで契約書の 「ファーストビュー」(初見のチェック) を効率化に

貴社に不利な条項をチェック。契約交渉の最初の一步を、テクノロジーが強力にサポートします。

Lawfree運営法人

法人概要

法人名 一般社団法人 法とAI研究所

所在地 〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学国際科学イノベーション棟4階401

資本金 なし

役員構成	代表理事	寶光井 英彦（弁護士）
	代表理事	岡本 哲也（弁護士）
	理事	羽深 宏樹（弁護士）
	理事	福井 妃菜子（弁護士）
	執行役員COO	今井 隆太郎
	執行役員CTO	松崎 達朗

「京大発スタートアップ」との呼称について

当法人は、京都大学広報様から「本学（京大）発スタートアップ」と呼称いただくなど、京都大学からも「京大発スタートアップ」と呼称いただいております。当法人が「京大発スタートアップ」と呼称される理由は、当法人が京都大学の教職員が設立に深く関与したというカテゴリーに該当することによります。当法人の設立および運営には京都大学は一切の関与をしておらず、また、当法人に対し京都大学が出資したり、直接または間接的に支配権を有するものでもありません。 **当法人の活動およびその結果その他一切について、京都大学はいかなる法的責任も負いませんので、なにとぞご了承下さいませ。**

「非営利型社団法人」について

当法人はいわゆる「非営利型一般社団法人」に該当します。「非営利型一般社団法人」とは、法人税法施行令第3条第1項に定義される非営利性の要件（すなわち、①剰余金分配の禁止、②残余財産の公益帰属、③特定の者への利益供与禁止、④同族法人でないこと）に該当する法人ですが、Lawfreeのサービス提供の対価として得られた収益は非課税扱いとはならず、課税事業として課税対象となります。

サービス概要

Lawfreeは、契約書チェックで特に負担の大きい「ファーストビュー」（初見時のチェック）に重点をおいたAIレビューサービスです。編集機能を持たず、シンプルな操作とリスクの発見に注力しています。



生成AIによる契約書チェック

契約書の全体像をAIが素早く分析。編集機能はあえて搭載せず、レビュー（閲覧・確認）に特化しています。



日本語・英語に対応

国内取引だけでなく、英文契約書のチェックにも対応。言語の壁を超えて公平性を確認できます。



不利益な条項の発見を重視

「不利な立場になっていないか」を重点的にチェック。契約書を受け取った最初の段階（ファーストビュー）での利用を想定しています。



法令適合性と制限事項

法律に関するアドバイスは弁護士法の観点から慎重に検討しており、現時点では契約書が法令違反であるかどうかの法令適合性には対応していません。



事件性のある契約書への対応（弁護士アカウントのみ）

紛争性が高い、または事件性のある案件に関する契約書については、弁護士アカウントのみでの対応となります。

Lawfreeの特徴



不利益条項の抽出に特化

契約書全体をスキャンし、「どちらか一方に過度に有利な条項」や「潜在的なリスク」を重点的にチェックします。要注意ポイントを可視化することで、交渉の勘所を即座に把握できます。



一次レビュー（ファーストビュー）に最適

相手方から契約書を受領した直後の「最初の確認」に最適化されています。詳細な文言修正の前に、大枠での問題点や受け入れ可否を判断する材料を提供します。

出力形式

レビュー済みWordファイル

コメント付きのdocxファイルを自動ダウンロード。
そのまま社内共有や修正作業に利用可能です。

処理時間

約3分 / 件（目安）

コーヒー1杯の時間で、
AIが契約リスクを洗い出します。

仕様上の注意

差分確認機能は未搭載です。

継続的なやり取りが発生した場合も、常にその時点の最新版全体をチェックする仕様となります（前バージョンとの比較機能はありません）。

使い方（レビューモード）

≡ 3 Simple Steps



01

ファイルのアップロード

レビューしたい契約書を
ドラッグ&ドロップします。

 Drop .docx here

 対応形式: Word (doc/docx)
※PDF・画像は非対応



02

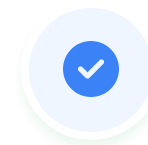
当事者の立場を入力

どの立場からチェックするか
自然言語で指定します。

入力例: 買主

入力例: 甲

入力例: 株式会社〇〇



03

レビュー完了

AIによる分析が完了すると
自動でダウンロードされます。

🕒 約3分

 レビュー済ファイル.docx

レビューモードの種類の例

☞ 特性に合わせて最適化



通常モード

Standard

一般的な商取引のバランスに基づき、標準的な公平性を重視してチェックします。

FOCUS POINTS

- ✓ 権利義務の公平なバランス
- ✓ 一般的な取引慣行との乖離
- ✓ 過度な責任負担の回避



スタートアップ

For Startups

スタートアップの権利保護という視点からリスクを重点確認します。

FOCUS POINTS

- ✓ 知財流出・模倣の防止
- ✓ 将来のExit（IPO/M&A）への影響
- ✓ 一方的な契約解除・変更条項



学術・研究機関

Academic / R&D

大学や研究機関特有の事情を考慮し、成果公表や知財帰属の運用面を重視します。

FOCUS POINTS

- ✓ 研究成果の公表の自由
- ✓ 知的財産権（特許等）の帰属
- ✓ 共同研究における役割分担

Note いずれのモードも、ステップ2で入力された「当事者の立場」に基づいて有利・不利を判定します

LAWFREE PRICING PLANS

ご利用プランの ご案内

～貴社の規模に合わせて柔軟に～

シェア型 アカウントの 仕組み

メンバー招待は無制限

Lawfreeは「オーナーアカウント」から、チームメンバーを自由に招待する仕組みを採用しています。組織の拡大に合わせて柔軟に運用いただけます。



1アカウントで何名でも招待可能

オーナーアカウントに紐づく形で、メンバーを無制限に招待できます。採用や異動による人数の増減にも柔軟に対応可能です。



同一アカウント内で回数（クレジット）共有

契約プランに応じた月間チェック回数は、招待されたメンバー全員で共有します。個別にプラン契約する必要がなく、無駄がありません。



100名以上の大規模チームでも共有可能

部署全体やプロジェクトチームなど、100名を超える規模での運用にも対応。大規模な組織でもスムーズに導入いただけます。

ご利用料金プラン一覧

Simple Pricing

プラン名	月間チェック回数	月額料金 (税込)	特徴
 Free	1回 (現在3回)	0 円	月に一回程度のご利用に
 Startup	5回	980 円	個人事業主・小規模チーム
 Standard	20回	3,000 円	一般的な法務・営業チーム
 Business	100回	9,800 円	全部署共有・法務部門

 リリース記念特典：無料プランはリリース記念として年内まで「月3回」提供予定です。

導入しやすい初期プラン



Freeプラン

0円

完全に無料で始められるエントリープランです。
まずはLawfreeの使用感を試したい方に最適です。

✓ 月1回チェック（現在キャンペーンで月3回）



おすすめの対象

- ✓ 小規模事業者様
- ✓ 最初期のスタートアップ企業
- ✓ フリーランス・個人事業主



Startupプラン

980円/月(税込)

リーズナブルな価格で必要な機能を利用可能。
小規模なビジネス展開をサポートします。

✓ 月5回までチェック可能



利用シーン

「毎日使わないけれど、ときどき契約書のチェックが必要になる」

そんな場面で、専門家に依頼するコストを抑えつつ、AIによる公平な視点でのチェックを手軽に導入いただけます。

成長に合わせたスタンダードプラン



一般的な法務・営業チームに最適

契約書チェックの頻度が増えてきたチームや、専任の法務担当者がいない中小規模の企業様に最適なバランスの良いプランです。



月20回のチェックが可能

ほぼ営業日毎日1件のペースで利用可能。日常的な秘密保持契約（NDA）や業務委託契約のレビューに十分な容量を確保しています。

月額料金 (税込)

3,000円 /月

月間チェック回数

20回 /月

おすすめの利用シーン

- 法務担当者1～2名のチーム
- 契約締結が定常的に発生する営業部門
- 外部専門家への相談前の一次チェック

本格運用のビジネスプラン



全部署共有・法務部門に最適

法務部門での集中管理や、営業・調達など複数の部署にまたがる利用に最適です。チームメンバー全員でアカウントを共有し、組織全体の契約リスク管理を効率化します。



大規模運用に応えるキャパシティ

月間100回のチェック回数は、日々の契約業務が多い企業様でも安心の容量です。過去の契約書の洗い出しや、繁忙期の大量チェックにも柔軟に対応できます。

🏷️ 月額料金 (税込)

9,800 円

コストパフォーマンス重視の大規模プラン

✓ 月間チェック回数

100回

チーム全員でシェア可能

👥 アカウント共有

オーナーアカウントから無制限にメンバーを招待可能。1つの契約で全社員が利用できる柔軟な設計です。

大規模組織のエンタープライズプラン



月間100件を超える大規模運用に

毎月の契約書チェック数が100件を超える企業様向けのプランです。全社導入やグループ企業での共有など、大規模な組織運用にも余裕を持って対応できます。



利用上限を自由に設定可能

月間利用上限を200件、300件、それ以上と、貴社の事業規模に合わせて自由に設定可能です。必要なキャパシティだけを無駄なく確保できます。

ご利用料金

100件あたり **9,800** 円 (税込)

※200件なら19,600円、300件なら29,400円と、100件単位でシンプルに加算されます。

対象

大企業・グループ企業

および契約件数が極めて多い法務部門

導入サポート

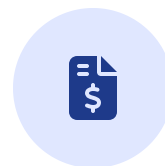
請求書払いやセキュリティチェックシートへの対応など、エンタープライズ企業様向けの導入サポートもご用意しております。

お支払い方法について



原則 クレジットカード払い

すべてのお客様にご利用いただける、基本のお支払い方法です。
お申し込み後、すぐにご利用を開始いただけます。



法人限定 請求書払い

以下のプランをご利用の法人のお客様は、
請求書払い（銀行振込）にも対応しております。

✓ Business

✓ Enterprise

別途お問い合わせが必要です

請求書払いをご希望の場合は、審査等が必要となる場合がございます。導入ご検討時に担当者までお問い合わせください。

Q&A

Lawfree

よくあるご質問 (FAQ)

機能、アカウント、セキュリティ、料金に関する
よくあるご質問をまとめました。



機能について

対応ファイルやレビュー時間など



セキュリティ

データ保護と安全性について



料金・プラン

お支払い方法や管理について

機能について

Lawfreeの対応ファイル、AIレビューの仕様、各種モードなど、機能面に関するよくあるご質問をまとめました。

Q1 対応しているファイル形式は何ですか？

A. Microsoft Word形式（.doc / .docx）に対応しております。PDFや画像ファイル、テキストファイルには現在対応しておりません。

Q2 レビュー完了までどのくらい時間がかかりますか？

A. 契約書の分量にもよりますが、通常はアップロード完了から約3分程度でレビュー済みのファイルが自動的に生成・ダウンロードされます。

Q3 AIが作成したレビュー結果をそのまま編集することはできますか？

A. Lawfreeは「データ不保持」を徹底するため、Lawfree自体にはエディタ（編集機能）は備わっておりません。ダウンロードされたレビュー済みWordファイルを、お手元のMicrosoft Word等で開き、指摘事項を確認しながら修正を行っていただく運用を想定しております。

Q4 英文契約書にも対応していますか？

A. はい、対応しております。ただし、Lawfreeのチェック基準は「不利益な条項の発見」に重きを置いており、特定の外国法（米国州法、英国法など）への適合性を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

Q5 「スタートアップモード」や「学術・研究機関モード」とは何ですか？

A. レビューの際の「視点」を切り替える機能です。なお、ほとんどの企業様の場合、場合、「通常モード」をお勧めしております。

スタートアップモード:

権利が一方的に奪われないか等、新興企業のリスク保護を強化します。

学術・研究機関モード:

知財の帰属や研究特有の免責条項などを重点的にチェックします。

特に指定がない場合は「通常モード」をご利用ください。

「事件性」と 弁護士 アカウント

弁護士法に基づき、Lawfreeでは事件性・紛争性のある契約書のAIレビューに制限を設けています。

通常アカウントと弁護士アカウントの違いや、システムによる制限の理由について解説します。



Q6

弁護士アカウントと通常アカウントの違いは何ですか？

A. 弁護士アカウントは、弁護士資格をお持ちの方専用のアカウントです。最大の違いは、「事件性・紛争性」のある契約書をレビューできるかどうかにあります。

日本において、事件性のある案件（紛争中の案件など）に対して法的なアドバイスを行うことは弁護士法により制限されています。そのため、通常アカウントではAIによるリスク判定を制限しており、これらに対応するには弁護士アカウントが必要となります。

Q7

清算条項が含まれる解約合意書をレビューにかけたところ、「紛争中の案件について弁護士以外のレビュー依頼は受けられない」というメッセージが出てレビューができませんでした。なぜですか？

A. Lawfreeは、「事件性」「紛争性」がある契約書については、原則としてレビューができない仕様となっております（弁護士アカウントを除く）。

「和解書」「離婚協議書」といった、タイトルが事件性を推測させる契約書はもちろんのこと、一般的な契約書であっても、条文内に「清算条項（債権債務がないことを相互に確認する条項）」が含まれる場合等には、法的な紛争や対立の解決を目的としていると推定されるため、レビューが制限されます。

Q8

どのような内容が含まれると「事件性がある」と判断されますか？

A. 主に以下の要素が含まれる場合に「事件性・紛争性あり」とシステムが判断し、通常アカウントでのレビューを制限する場合があります。

タイトル: 和解合意書、示談書、合意解約書、離婚協議書など。

条項内容: 清算条項、権利の放棄、紛争の解決に関する特約など。

文脈: 既に発生したトラブルの解決や、債務不履行に伴う契約解除の処理など。

セキュリティ データ保護 について

Lawfreeは、ユーザー様の契約書データの機密性と安全性を最優先に設計されています。AI学習への利用やデータの永続保存は一切行いません。

Q9

アップロードした契約書データがAIの学習に使われることはありますか？

A. いいえ、ユーザー様がアップロードした契約書データや入力した当事者名が、AIモデルの学習に利用されることはありません。また、AIやサーバー等にデータが残存することはなく、ユーザー様の契約書データは契約書ダウンロードとともに即時消滅します。

Q10

Lawfreeが接続するAIやサーバー上に契約書データは残るのではないですか？

A. いいえ、Lawfreeの使用するAIはZDR（zero data retention）でありデータは一切保存されず、また、Lawfreeは契約書データを永続ストレージに保存しません。データは処理スコープ内でのみ有効な揮発性メモリ上に展開され、レビュー結果のレスポンス完了（ダウンロード）と同時に、プロセスと共にメモリ上から消失します。ディスクへの保存領域自体が存在しないため、削除漏れや復元の可能性は原理的にありません。

Q11

Lawfreeはユーザーの契約書データを見ることができるのではないですか？

A. いいえ、設計上、Lawfreeがユーザー様の契約書データを知ることはできません。契約書レビュー処理は、リクエスト毎に独立したステートレスなコンテナプロセス内で実行されます。このプロセスは「保管」を目的とせず「計算」のみを行い、処理結果の返却以外の外部通信において契約書内容を含まないよう厳格に設計されています。

Q12

Lawfreeはユーザー契約書のログデータを見ることができるのではないですか？

A. いいえ、Lawfreeは設計上、ユーザー様の契約書データのログデータを取得しておりません。したがって、Lawfreeはユーザー様の契約書内容を知ることはできません。ユーザー様のアクセスログ（どのエンドポイントに、いつ、どのユーザーがアクセスしたかという情報）のみ記録しております。

料金プランについて

お支払い方法、チーム管理、料金体系に関するよくあるご質問をまとめました。



Q13

請求書払いは可能ですか？

A. はい、「ビジネスプラン」「エンタープライズプラン」をご契約のお客様に限り、銀行振込による請求書払いに対応しております。その他のプランについては、原則クレジットカード決済をお願いしております。

Q14

チームメンバーを追加して共同利用することはできますか？

A. はい、全てのプランで対応しております。管理画面の「メンバー管理」から新しいユーザーを招待し、アカウントを紐付けることが可能です。

Q15

たとえば、月額3,000円のスタンダードプランで、20名のチームメンバーを招待して、チーム全体で月間20件のレビューをしたとして、使用料金はようになりますか？

A. 総額で月額3,000円となります。たとえチームメンバーを100名登録して頂いたとしても、月間使用数が上限内である限り、月間料金は基本料金のまま変わりません。

Q16

月間3,000円のプランで、30回使用したような場合には、自動的に追加料金が加算されますか？

A. いいえ、月間使用回数上限（スタンダードの場合は20回）に達した場合、それ以上のレビューはできませんので、追加クレジット購入して頂かない限り、自動的に追加料金が加算されることはございません。

SECURITY DOCUMENTATION

Lawfree

セキュリティ説明書

本ドキュメントは、Lawfreeにおけるデータの取り扱い、暗号化の実装、インフラ構成、およびサービス品質に関する詳細を規定したものです。



SECURE & RELIABLE

データの 取り扱いと 処理フロー

Lawfreeにおけるデータの扱いは
「ゼロ・データ」を基本思想としていま
す。

処理は全て揮発性メモリ上で行われ、永
続的な保存は一切行われません。

基本設計



ゼロ・データポリシー

Lawfreeはユーザー様の契約書データを保持しないし、アクセスもしない（できない）という
「ゼロ・データ」を根本的な設計思想としております。



揮発性メモリ内処理の徹底

契約書データはLawfreeのサーバー（現時点ではAWS）を経由しますが、処理はすべて揮発性
メモリ（RAM）上のみで行い、物理ディスクには一切書き込みません。



データ残留リスクの排除

通信は全経路でTLS（1.2以上。以下同じ。）で暗号化されており、処理が終わるたびに実行環
境（コンテナ）を消去することで、データが残留するリスクを完全に排除しています。

暗号化の実装仕様

Lawfreeでは、保存時（At Rest）および転送時（In Transit）の双方において、業界最高水準の暗号化技術を実装し、データの機密性を担保しています。



保存時の暗号化（Encryption at Rest）

- **機密データ（契約書）について:**
契約書データは揮発性メモリのみで処理し、ストレージへの保存を一切行わないため、保存時における流出リスクは存在しません。これは「Encryption at Rest」を超える安全性の確保を意味します。
- **システム運用データについて:**
ユーザー名、メールアドレス、ユーザーID等の最小限の運用データについては、AWS上で AES-256 による暗号化保存を徹底しています。



転送時の暗号化（Encryption in Transit）

1. **エンドツーエンドのTLS 1.2/1.3適用:**
ユーザーブラウザからVercel、およびVercelからAIプロバイダー間の全経路において、最新のプロトコルを適用しています。
2. **HSTS（HTTP Strict Transport Security）による強制保護:**
システム全体でHSTSを有効化し、ブラウザに対してHTTPS接続を強制。中間者攻撃やダウングレード攻撃を構造的に遮断しています。
3. **AIプロバイダーへのセキュアなAPI接続:** エンタープライズ向けセキュアAPIエンドポイントを利用。インターネット経由時もデータが平文になる区間は一切存在せず、一貫した暗号化が維持されます。

鍵管理と インフラ セキュリティ

ハードウェアセキュリティモジュール（HSM）を用いた厳格な鍵管理と、世界トップクラスのクラウド基盤によるインフラセキュリティについて規定します。



厳格な鍵管理体制

暗号化に使用するマスターキーの管理には、マネージド型の専用ハードウェアセキュリティモジュール（HSM）を利用しています。

- **機密情報（契約書）の扱い:** データを保存しない「Zero Data Retention」設計のため、保存用鍵の管理リスク自体を構造的に排除しています。
- **運用データの保護:** 保存が必要なアカウント情報等は、AWS KMS/HSMによる「物理金庫の鍵」を用いてAES-256で暗号化し、厳重に保護しています。



アクセス制御の原則

- **権限分離（Least Privilege）:** 鍵の使用権限は最小権限の原則に基づき、特定のシステムプロセスのみに限定して付与されます。運営スタッフが鍵自体に直接触れることはできない仕組みです。



セキュリティの概要

世界トップクラスの信頼性を誇るクラウド基盤（AWS/Vercel等）を活用し、以下のセキュリティを実装しています。

- **全経路でのHTTPS/TLS暗号化:** 盗聴や改ざんを構造的に防止。
- **HSTSによる強制接続:** 非暗号化接続を遮断。
- **API接続の秘匿化:** 強力な認証を伴うセキュアなAPI経由で直接通信。

ログと メタデータの管理

アプリケーションログの設計原則と、AIプロバイダー側での厳格なデータ保護ポリシーについて解説します。



アプリケーションログの設計原則

- **プロンプトおよび機密データの非保持:** プロンプトをアプリケーションログに記録しない設計を採用しています。出力ログは「ユーザーID・処理依頼回数・タイムスタンプ」等の統計的なメタデータに限定されています。
- **クレンジング不要の構造:** 記述の通り、契約内容や個人情報（PII）のログを取得しない設計であることから、これらの情報がログに混入する余地を構造的に排除しているため、ログのクレンジング自体が不要であり、ログからの漏洩リスクは理論上存在しません。



AIプロバイダー側のデータ保護

エンタープライズ専用ポリシーに基づき、「Zero Logging（データ非保持）」を実現しており、以下の機密性が保証されています。

- **学習への利用禁止:** ユーザー入力データがAIモデルの学習に利用されることは一切ありません。
- **データの非保存（Zero Data Retention）:** データは揮発性メモリ上でのみ扱われ、物理ディスクへのログ保存や長期保管は行われません。
- **管理者の閲覧不可:** データは処理完了と同時に破棄されるため、AIプロバイダーのエンジニアであっても閲覧不可能な構成です。



第三者認証・コンプライアンス

- インフラ層の認証

本サービスは、ISO 27001、ISO 27017等の国際認証を保持しているAWSのデータセンター上で運用されています。

- 組織認証の状況

サービス開始直後につき弊社自体の組織認証は現在準備中ですが、AES-256暗号化、HSMによる鍵管理、TLS 1.2/1.3化など、本サービスのために必要なセキュリティを網羅した堅牢なアーキテクチャを採用しています。



サービスレベル（可用性）に関する方針

- 冗長化されたインフラ:

各クラウドのマルチAZ設計等に準拠し、単一障害点を排除。物理サーバー故障やデータセンター障害に左右されない継続性を確保しています。

- データの非依存性:

契約書データを永続保持しないため、万一のシステム停止時も「データの消失」や「社内プロセスのロック」というリスクは構造的に存在しません。

目標稼働率

99.9%

高可用性アーキテクチャによる安定稼働

準拠インフラ



AWS

ISO 27001 / 27017

リスク構造

データ消失リスクなし

データを永続保持しないため、システム障害時でも情報漏洩やデータ消失のリスクが原理的に存在しません。

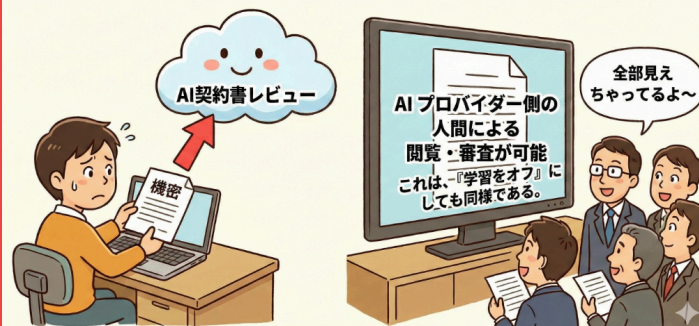
COMPARISON

生成AIサービスの 閲覧権限とZDR

既存のAIサービスとLawfreeの決定的な違い。特別な契約なしでは、あなたの契約書データはAIプロバイダーによって「閲覧」される可能性があります。



契約書AIレビューのリスク：プロバイダー側の広範なアクセス権



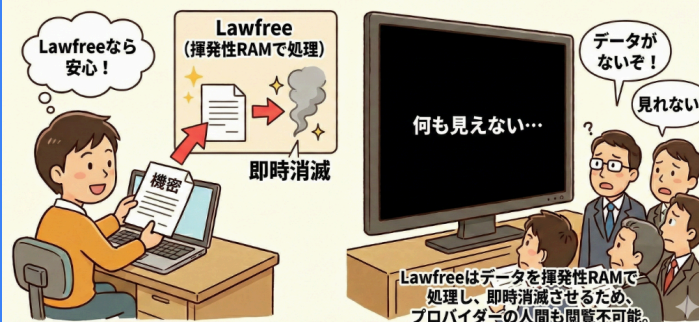
⚠️ 既存AIサービスのリスク

プロバイダーによる広範な閲覧・審査権限

ChatGPT、Gemini、Claudeなどの一般的なAIサービスでは、利用規約上、AIプロバイダーに広範なアクセス権限が付与されます。「学習をオフ」にしても、**安全性の確認等の名目で人間による閲覧・審査が可能となっているケースがほとんどです。**

(※除外にはエンタープライズAPI版などでZDR申請が必要)

Lawfreeの安心感：データは即時消滅！AIプロバイダーも閲覧不可！



🛡️ LAWFREEの安心感

データ即時消滅・閲覧不可能

Lawfreeは「Zero Data Retention」をアーキテクチャレベルで実装しています。データは揮発性メモリ上で処理され、完了と同時に即時消滅するため、プロバイダー側の人間であっても閲覧することは物理的に不可能です。特別な契約や申請は不要で、標準でこの安全性が提供されます。

Lawfreeの「三ざる」ポリシー

LawfreeはZDRを確保

LawfreeはこのZDRを確保しており、これによってLawfreeに入力された契約データは技術的には一切システムのストレージ上に「保存」されることがなく、揮発性メモリ上での処理終了後に即時にシステム側から消滅します。

このことはLawfreeの運営会社のシステムが万が一ハッキングを受けたとしても、そもそもLawfreeにはユーザーの契約書データがないため、契約書情報の漏洩の可能性が無いことを意味します。






！ 一般的な生成AIにおけるデータ保持（data retention）とは

通常に申込み可能なChatGPT、Gemini、Claudeなどは、高額プランでかつ「AI学習をオフ」（オプトアウト）を確実に設定した場合であってもZDR（zero data retention＝データの完全不保持）が設定できません。そのため、これらのサービスでは、課金プランや設定にかかわらず、かならず契約書データのコピーが一定期間、AIに保持され、一定の条件下で人間がアクセス可能な状況に置かれます。

ZDRのないAIは高度な守秘性のある企業や弁護士業界では使用されない：

そのため、これらのZDR設定のないAIに契約書を入力することは高度な守秘義務を負う業界、たとえば金融機関や官庁、弁護士業界などでは忌避されているといわれ、エンタープライズ契約によりZDRを設定した場合のみ利用されているようです。

Lawfreeの「三ざる」原則（No-View／No-Training／No-Retention）

	主な生成 AI（ChatGPT Plus / Gemini Advanced / Claude Pro）	Lawfree
 No-View（見ざる）	✗ 限定的な事例と説明されていますが、重要なフラグが立った場合等にAIプロバイダの人間が入力内容を確認できます。	◎ ZDR設定によりログが瞬間消滅するため、AIプロバイダの人間がリアルタイムでログを確認することはできません。
 No-Retention（持たざる）	✗ 契約書のデータはかならずAIサービス内に一定期間残ります。（30日以上など）そのデータにサービス側の人間はアクセス可能であり、規約上はAIプロバイダに広範なアクセス裁量与えられています。	◎ ZDRにより、処理終了後にデータは即時消滅します（そもそもストレージに保存されません。）そのため、AIプロバイダ側の人間であっても事後的に契約書データにアクセスすることはできません。
 No-Training（使わざる）	△ AIによる学習は原則としてされます。ただし、いずれのサービスでも、オプトアウト等の設定をすることで学習しない設定にすることはできます。	◎ 学習利用されません。

セキュリティFAQ

セキュリティ部門の皆様から 特に多くいただくご質問について 技術的な観点から回答いたします。

Q1

万が一、実行基盤がハッキングされた場合、過去に処理した契約書データがまとめて流出する恐れはありませんか？

【解答】 **その恐れはありません。** Lawfreeは不保持（Zero Data Retention）を設計の根幹としています。データベースやストレージへ契約書本体を保存する処理自体が実装されていないため、ハッキング時点で「サーバー内に存在しない過去のデータ」を盗み出すことは物理的に不可能です。

Q2

Lawfreeの運営スタッフ（内部人間）が、システムを介してユーザーの契約書を閲覧することは可能ですか？

【解答】 **技術的・組織的に不可能な体制を構築しています。** 運営者が契約書内容を閲覧する機能は一切存在しません。また本番環境へのアクセスにはMFAを必須とし、操作ログをすべて記録しています。データがメモリ上に存在する時間は極めて短時間（平均3分以内）であり、運営者が意図的にデータを抽出することは権限分離の観点からも不可能です。

Q3

AIプロバイダー側で、入力データがモデルの学習に利用されたり、AIプロバイダーのエンジニアに見られたりすることはありますか？

【解答】 **規約および技術設定により、学習・閲覧は完全に遮断されています。** エンタープライズ契約により再学習への利用禁止が明文化されています。また「Zero Logging」設定によりAIプロバイダー側のインフラログにもデータが残らないため、AIプロバイダー 社内においてもデータが保持・閲覧されることはありません。

Q4

Lawfreeのインフラに障害が発生した場合、データが「消えずに残ってしまう」という事故は起きませんか？

【解答】 **異常終了時もデータは消去されます。** 採用している「サーバーレス」の仕組みは、プロセスの終了と共にメモリ領域がOSレベルで解放（初期化）される特性を持っています。電源断や強制終了によってデータが残留し、後から復元されるというリスクは原理的に排除されています。